

『ふるさと学習を通じた「酒々井の交通」』

【酒々井町教育委員会 主査 一場 郁夫】

1. ふるさと学習（酒々井学）

酒々井学とは、町の地域素材を使って教科等の学習内容と関連づけて作成した学習プログラムを通して実践する地域学習です。町の歴史・文化・自然等について知ることで、郷土に対して愛着と誇りを持ち、町民としてのふるさと意識を育むことをねらいとしています。

2. 酒々井学プログラム「酒々井の交通」の実践

(1) ねらい

小学校3学年社会科学習の「町のうつりかわり」と地域の鉄道会社との連携事業によるふるさと学習（酒々井学プログラム「酒々井の交通」）とを関連づけて実践することで、①まちづくりと交通について考え、②交通を通じて郷土に対するふるさと意識を育む。

(2) 学習の流れ

①社会科学習・ふるさと学習（酒々井学）


- ・約70年前と現代の京成電鉄酒々井駅前の写真を比べて、学習問題「町はいつごろどのように変わったのだろうか？」を設定する。
- ・大正時代と現代の京成電鉄酒々井駅前の地図を比べて、町の変化の原因を予想する。
- ・交通と町の開発との関係について考え、各種資料等を活用して調べ活動を行う。
- ・京成電鉄の方による出前授業「まちづくりと交通」を通して調べる。
- ・交通と町の開発との関係について話し合う。
- ・学習内容をキーワードと関係図を使いシートにまとめる。

②社会科見学

- ・宗吾車両基地の整備の様子を見学して、安全な運行に対する工夫と努力について知る。
- ・旧型車両を観察して京成電鉄の歴史を体感する。



車両基地の見学



(3) 作成資料

①町の開発（鉄道と道路）【写真パネル】

②映像資料（業者委託による撮影編集）「わたしたちの酒々井町と京成電鉄」【DVD】

- ・宗吾車両基地の見学コース（限定運転手の仕事）
- ・京成電車からの車窓風景（酒々井町の町並み）

③京成電鉄と酒々井町の開発【ワークシート】

3. 実践の成果

本実践を通して、酒々井町は鉄道（交通）の発展とともに開発されてきたことを実感するとともに、町内に車両基地がある京成電鉄に対して愛着を深めることができました。